国語科通信

まなび！net

Vol.05
2021.10

秀学社

- **国語科の授業のアイデアを広げたい！**
- **具体的な実践事例を知りたい！**
- **授業の導入に使える小話はないだろうか？**

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

GIGAスクール構想 1人1台端末を効果的に活用した国語実践Ⅲ

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校
土持（つちもち）　知也（ともや）

発展期における一人一台端末を生かした国語実践

前回までは、一人一台端末の導入期・展開期における授業実践の紹介を行ってきた。今回は一人一台端末の強みを最大限に生かした発展段階の授業実践例を紹介する。生徒も先生も端末の扱いに十分に慣れてきた発展期では、端末を活用することでしか実現しない実践を考えていきたい。その際も、端末を使うことを目的とせずに、「端末の機能＋α」の気持ちで、あくまで学習を効果的かつ効率的に進められるようにしていくことが大切である。以下の実践は、端末やアプリの機能などを使いながら、生徒が学習の前後にどのような思考の変化があったのか、また、その過程でどのような交流があったのか等を可視化し、評価に生かせる実践である。

1 場面に応じて、字形を整え楷書で書く単元

一年生の書写の授業でwordソフトを用いた実践である。この授業では、自分の書をもっと上達させるための交流を取り入れた。その際、自分の書の写真を撮り、交流でもらった助言等を直接書き込ませた。その写真を参考にしながら改善を図り、再度撮影を行った。その二枚の写真を、事前に共有していたwordファイルのワークシートに添付し、交流の前後にどのような変化があったか明確にさせた。さらに、生徒はそれを印刷し、同じワークシートで振り返ることで、どのようなことを意識して学習の調整を図ろうとしたのかを見ることができる。交流の前後の変化、学習の振り返りを一覧できることで、先生にとっても評価の効率化につながった。

▶ 交流の前後の作品を並べ、比較しながら振り返ることで、どのような意識で改善に取り組んだのか、具体的に振り返りやすくなっている。先生もこの1枚で評価の効率化が図れた。

2 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の生き方について考えをもつ単元

三年生の「読むこと」で、アプリの機能を使って交流した実践である。アプリ内で、自分の考えを記述したWordファイルを共有し、生徒はそのファイルを互いに読み合うことで意見を交流した。オンライン上では一方向での発信になりがちだが、双方向性のあるやりとりにするために、互いの助言等を書き込む際は相手にメンションしてから書き込ませた。相手にはメッセージが届くため、自分ごととして受け取られ、交流が活発になった。また、先生も生徒の交流が見られるので、考えを広げたり深めたりしようとしている過程を評価しやすくなった。最後に、交流の前後に変化があった記述部分に、赤で加筆をさせたり、取り消し線を使わせたりすることで、思考の変容を可視化することができた。

『　人生の終わらせ方　』

【4組　28番　名前　】

↓ ルロイ修道士は日本に来てすぐに戦争がはじまり、働かされて、当時は本当に日本人を恨んでいたと思うし、天使園の子供たちに恐れられてしまうのも仕方がないと思う。でも、ルロイ修道士は心から天使園の子供たちのことを思っていたと思う。このルロイ修道士みたいに、自分の周りの人の幸せや喜んでいる姿を自分の幸せだと思える人は、本当に優しくて、周りの人にも影響を与えるような人だけだと思うので、そういう大人になりたいと思った。また、こういう柔軟な大人の下で育った天使園の子供たちはたくさんの影響を受けていると思う。ルロイ修道士のことを怖がって、変な噂が流れたり、天使園の十字架があったり、ルロイ修道士を裏切るように勝手に結婚を決めて東京に行ったりすることもあったが、それでも、からもルロイ修道士の優の指言葉の真似をしたり、僧侶所ではないところにバスを止めたりして、いつまでも天使園で育った子供たちに心の中には、ルロイ修道士がいるのではないかと思った。また、最後のシーンでルロイ修道士の身体の話を聞いて「両手の人差し指を交差させ、せわしく打ち付けていた」というところで、無意識に感情が高ぶったときにルロイ修道士のサインをしていることからも、彼らの心にルロイ修道士が強くいるということが伝わったと思う。だからこそ、ルロイ修道士は自分の病のことを明確には明かさずに、故郷に帰って畑いじりでもするという嘘をついて、みんなに心配させないように、でも、自分の伝えたいこと（仕事がうまくいかないときに思い出してほしい『困難は分割せよ』や、自分の楽しかったこと、悲しい時を話して、親子で天使園に入って欲しくないなどの自分の願いなども）はちゃんと伝えて、しっかりと別れを告げてから去っていったのだと思う。自分のやりたいことを最後までやって、やり残したことがないようにして人生を終わらせるという生き方はかっこいいと思った。それに、最後に「死ぬのは怖くないか」と聞かれて、「天国があると信じているから怖くない。そっちのほうがよっぽど楽しい」と言える感じが、最後までルロイ修道士を貫き通している感じがして、弱音を吐かないというところも一人のやさしさであり、らしさのではないかと思った。私も死ぬと分かっていたら、最後は後悔しないようにする生き方をしたいので、ルロイ修道士に憧れを感じた。言い方は悪くネガティブに聞こえるかもしれないけれど、いつ死んでもいいよう、後悔しないように生活したいと思いました。

▲　赤で加筆し、取り消し線を使うことで、交流の前後の変容が可視化される

あくまで〝手段としての〟端末の活用を目指す

以上の二つの実践で使っている機能は、基の機能を少し発展させたものである。今回の実践から一人一台端末の一つの強みとして、学習の過程を生徒と先生が共有できる、ということが挙げられるのではないかと思う。また、それを記録・保存し、ためていけば一年間の学習の履歴として残していくことも可能となる。他にも、会議機能を使えば、離れた相手とウェブ会議を行う、話合いの授業なども考えられる。これからも、生徒の資質・能力の育成に寄与する手段としての端末の活用方法を考えていきたい。

▲　メンションし、交流でさらに考えを広げ深め合おうとしている姿

〔編集部のつぶやき〕ノーベル文学賞あれこれ

先日、2021年のノーベル文学賞受賞者が発表されました。日本人ならば「ノーベル文学賞」と聞けば、「村上春樹はどうなの？」と思い至る方も多いかと思います。かく言う私もそのひとり。今年は英大手ブックメーカーの賭け予想で、村上氏が最上位グループ６人に名を連ねたとのことでしたが、残念ながら今年も受賞はなりませんでした。

文学賞選考委員会のコメントを読むと、賞の選考では授与する国を毎年ある程度ばらつかせているそうです。そういった事情で考えると1994年に大江健三郎が受賞して以降、日本での受賞者はいませんから、（選考対象に挙がっているならば）村上氏が受賞する日も遠くないかもしれません。（編集部：大石）

秀学社 国語科 LINE公式アカウント
コクカフェ
▼役立つ情報を配信します。
ぜひご登録ください。